

[成果情報名]イチゴ「ゆめのか」の株間と芽数制限による収量と収穫の平準化

[要約]イチゴ「ゆめのか」暗黒低温処理栽培では、株間25cmで12月までの芽数を1芽に制限すると第1次腋花房の収穫が早まり、2月までの早期収量が増加し、3月下旬～4月上旬の収量が減少し、収穫の平準化が可能となる。

[キーワード]イチゴ、ゆめのか、高設栽培、芽数、株間、収量

[担当]長崎県農林技術開発センター・農産園芸研究部門・野菜研究室

[連絡先](代表) 0957-26-3330

[区分]野菜

[分類]指導

[作成年度]2016年度

[背景・ねらい]

本県イチゴは、主力品種であった「さちのか」から多収性で輸送性に優れる「ゆめのか」へ品種転換が進んでいる。

これまで、農林技術開発センターでは「ゆめのか」の特性を活かした栽培技術の開発に取り組み、高設栽培における適正な株間を明らかにした(ながさき普及技術情報、第35号)。その中で、株間と収量の関係はイチゴの芽数や着果数が影響することが考えられる。

そこで高設栽培における「ゆめのか」に適した株間と頂花房収穫終了時期(12月まで)の芽数が収量に及ぼす影響を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 株間と芽数制限に関わらず頂花房の出蕾日、開花日、収穫開始日は同等となり、年内収量は芽数に関わらず株間30cm<25cm<20cmの順で多くなる(表1)。
2. 第1次腋花房の収穫開始日は、1芽制限と広い株間で早くなり、2月までの早期収量は、株間25cmと株間30cmの1芽制限で多くなる傾向となる(表1、図1)。
3. 株間に関わらず3芽制限で総収量は増加し、特に3月以降の収量が増加する(表1、図1)。
4. 1芽制限では株間20cmに比べ株間25cmと30cmで2月上旬から収量が増加し、収穫ピーク時(3月下旬～4月上旬)の収量が減少するため収穫の平準化が可能となる(図2)。株間25cmで芽数を1芽に制限すると2芽、3芽制限に比べ2月上旬から収量が増加し、収穫ピーク時(3月下旬～4月上旬)の収量が減少するため収穫の平準化が可能となる(図3)。

[成果の活用面・留意点]

1. 「ゆめのか」の高設栽培における栽植密度と12月までの芽数制限の指標として活用できる。
2. 芽数制限では12月末まで所定の芽数になるよう腋芽を除去し、1月以降は芽数制限をしなかった。
3. 栽植株数は株間20cmで700株/a、株間25cm560株/a、株間30cmで467株/aとなる。

[具体的データ]

表 1 株間と芽数の違いによる花房の出蕾・開花・収穫開始日と収量

株間	芽数	頂花房			第1次腋花房	年内収量 (kg/a)	早期収量 (kg/a)	総収量 (kg/a)	平均1果重 (g/果)
		出蕾日 (月/日)	開花日 (月/日)	収穫開始日 (月/日)	収穫開始日 (月/日)				
20cm	1芽	10/7±1	10/20±1	11/16±2	2/27±6	180	215	648	16.1
	2芽	10/7±2	10/20±2	11/17±2	3/5 ±6	175	198	684	15.6
	3芽	10/6±1	10/18±1	11/15±1	3/1 ±6	184	209	724	16.2
25cm	1芽	10/5±1	10/17±1	11/14±1	2/8 ±6	153	237	659	17.2
	2芽	10/4±1	10/17±1	11/13±1	2/19±6	161	204	640	16.3
	3芽	10/6±1	10/19±1	11/16±2	2/19±5	160	196	680	15.9
30cm	1芽	10/5±1	10/18±1	11/14±2	2/2 ±3	137	233	603	17.2
	2芽	10/6±1	10/19±1	11/15±2	2/5 ±2	138	223	655	16.8
	3芽	10/6±1	10/19±2	11/16±2	2/5 ±3	135	223	679	16.9

※早期収量は2月までの収量、±は95%信頼区間の幅、1区10株3反復

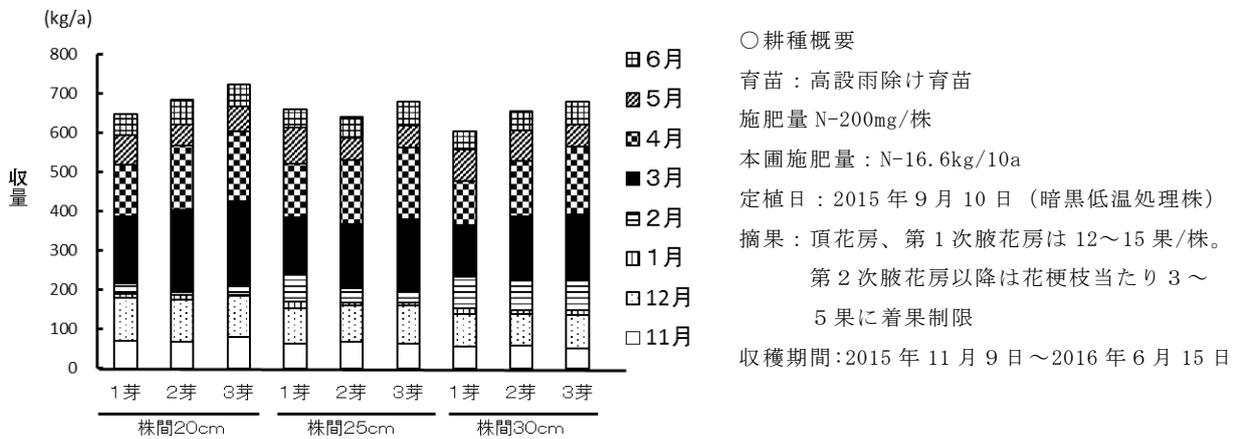


図 1 株間と芽数（年内）の違いによる月別収量

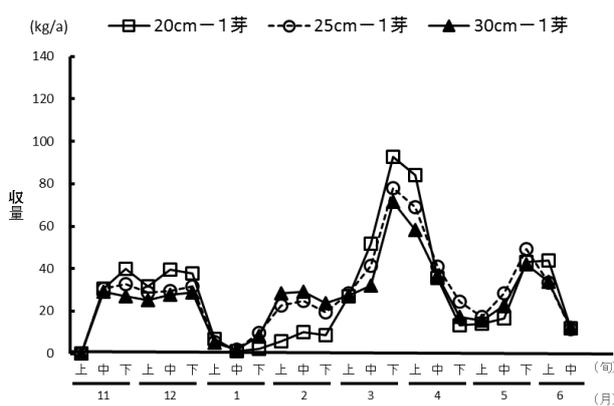


図 2 1芽制限における株間と旬別収量

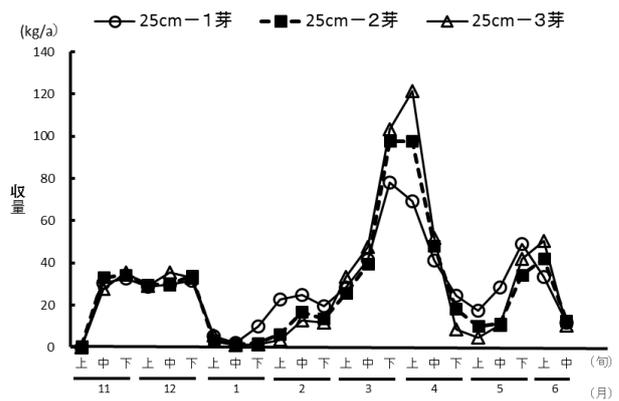


図 3 株間 25cm における芽数制限と旬別収量

[その他]

研究課題名：イチゴ次期有望品種「ゆめのか」の安定生産技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2013～2015 年度

研究担当者：前田 衡